

学校教育目標		志を持ち自ら行動できる生徒の育成		重点目標	自ら考え、自ら学び、相互に伝え合う力の育成			
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果○と課題△)		評価	コメント	次年度における改善策(案)
重点目標に関する評価	学ぶ意欲の向上と基礎・基本の定着	「わかる」「できる」を実感させる授業づくり 小中一貫による学力向上の取組 公開授業の全員実施	学力検査結果の向上 前年度比+3ポイント以上 生徒アンケート「先生の説明や学習プリント、板書はわかりやすい」とする生徒 80%以上	3	△全国・県の学力検査の結果は上がったが目標値までは達しなかった。 ○小中で教員全員が、相互に授業参観をすることができた。	A	学校の評価は適切である。 学校の取組が家庭に反映されてほしい。 学力の向上を図ってほしい。 学力3ポイント向上は極めて難しいと思う。 小中一貫の具体的な取組がされており、成果を期待する。	学校の学力向上の取組をメールや学校便り等を活用して家庭へ伝え続ける。 小中の相互の授業参観後の協議を、視点を明確にして充実したものにする。 ICTを活用した授業づくりの推進を図る。 学校で共通して取組むことを、校内研修等を利用して、教師全員で共通理解する。
		「自分で考える時間」「互いに交流する場面」を取り入れ、主体的・対話的な学習の場面の設定	生徒アンケート「自分の考えを書く、伝える、振り返ることができる」とする生徒 80%以上	3	○公開授業を実施する上で、「個で考える」「小集団で交流する」時間を確保した授業がほとんどであった。 △家庭学習ノートの点から大半の生徒が家庭学習に取り組んでいたが、一定以上の取組時間に達していなかった。	A		
		家庭学習の習慣化・内容の充実の組織的な取組	生徒アンケート「家で宿題や復習をしている」生徒 80%以上	2		B		
	基本的な生活習慣の育成 あ:あいさつ そ:掃除 ふ:服装 じ:時間	他者を敬い、自分に問うあいさつ指導(「こだま班」によるあいさつ運動)	生徒アンケート「挨拶がよくできている」生徒 80%以上	4	○全学級が、あいさつ運動に参加した。 ○定期的な掲示物の交換や生徒全員が清掃活動に取り組み、環境は整っていた。	A	学校の評価は適切である。 成果指標が高すぎると思う。達成できればよい。 「あ・そ・ふ・じ」ができています。 小中の取組が形になってきている。 まだあいさつができていない生徒もいる。	小中の交流を軸として、9か年を見通した生徒指導を地域と共にすすめていく。 生徒会活動や学校行事の目的、内容、方法を共通理解し、組織として生徒指導を進める。 学級経営、生徒会活動を核にすえて、「あそふじ」の徹底を図る。
		生活環境や学習環境を整えさせる指導(掲示物等による環境整備)	生徒アンケート「クラスの清掃などの環境が整えられている」生徒 80%以上	3	○授業開始時に、教師と生徒が共に教室に臨むことができていた。	A		
		時間を厳守することで信頼を築く指導(授業開始時には教壇に臨む)	生徒アンケート「チャイム席が守れている」生徒 95%以上	3	○ほとんどの生徒が、行事後のアンケートで、「協力できた」「楽しかった」と答えていた。	B		
		生徒の良好な人間関係を支援する指導	生徒アンケート「行事等で協力することができる」生徒 80%以上	3		A		
	SDGsの達成に向けたESDの展開	学校行事等で活躍する場面や自己存在感を高める場の設定	生徒アンケート「体験活動で充実感や満足感を味わえた」生徒 80%以上	3	○コロナ禍の中で、工夫しながら体育祭や各学年の行事を実施したので、生徒の満足度が高かった。	A	学校の評価は適切である。 生徒が自発的にとりくんでいる。 コロナ禍の中で、“できない”ではなく、“どうしたらできる”を考え、行動する生徒の姿を見ることができた。	学校運営協議会地域活動部会と協力して、地域で学ぶ機会を増やす。 地域との交流や協働体験を推進し、地域で行動できる生徒を育てる。
		校外よりGTを招いた、社会に開かれた教育の推進	GTの招聘 年間10回以上	4	○地域学習、福祉教育、職業講話など様々な場面でGTに協力いただき、十分に学習に取り組むことができた。	A		
		SDGsの達成に向けた学校外との協働・交流	地域アンケート「学校は地域との協働をすすめている」70%以上	3	○地域の行事等に参加する生徒が増えた。	A		
いじめ防止	学校行事や体験活動と関連を図った道徳の授業の実施	生徒アンケート「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」生徒 90%以上	4	○いじめを許さないと考える生徒が大半を占めた。 ○いじめの認知度が上がり、いじめ事案の解消につながった。	A	学校の評価は適切である。 いじめる側のフォローも大切である。 「いじめは100%いけないこと」と考える生徒の育成を目指してほしい。 生徒の様子から日常的にいじめ防止に取り組んでいることが分かった。	小中で連携して、9年間を通した生徒指導を実践し、いじめを生まない学校、地域づくりを推進して、いじめの未然防止に努める。 行事や学活、道徳等を通して、人間関係づくりに努め、絆づくりと居場所づくりを推進していく。	
	いじめ防止に関する啓発活動の推進	生徒アンケート「クラスに、困っている人を助けてくれる人がいる」生徒 80%以上	3	○いじめ防止対策委員会の開催により、SC、SSWによるいじめ事案の検証、研修内容を共有することができた。	A			
	いじめ防止に関する職員研修の実施(学期1回)	生徒アンケート「学級でほっとしたり、楽しい気持ちになったりする」生徒 80%以上	3	○学校は楽しいと言う生徒が増えた。	A			
不登校防止	不登校生徒の減少と関係機関との連携体制の構築	福岡アクション3の徹底 不登校生徒の確実な把握と早期対応(新たな不登校を出さない)	2	○不登校生徒の状況と対応を一覧表にして、職員で共有した。 △昨年度より不登校生徒の数は減少したが、4月当初より不登校数が若干増加した。	B	学校の評価は適切である。 コロナ禍の中で、不登校の生徒を減少できたことはすごい。 不登校の生徒の兄弟の連鎖を心配している。	アクション3の日常化を運営委員化や生徒指導委員会で徹底する。 連続もしくは長期欠席の生徒への対応を職員全体で把握できる工夫をする。 小中一貫教育を通して、同じ家族内の情報の共有を図るとともに、必要に応じたSSWやSCを加えたケース会議を実施する。	
		SSW、SC、関係機関、訪問指導員等との連携	3	○SSWによって、小中の情報共有が密になった。また、SCを活用した生徒対応ができた。	A			
働き方改革	働き方改革を推進した教育の質の向上	定時退校日の確実な実施(月4回)		3	○定時退校日の設定について、予定通りに実施できた。	A	学校の評価は適切である。 教師の健康を心配している。 休日の部活動の在り方について改善してほしい。 部活動による生徒の成長に期待するが、指導者の休養について検討が必要だと思う。	業務の目的や目標を明確にし、取組のメリハリを認識させ、働き方改革に対する職員の意識改革をすすめていく。 平日における部活動休養日の確実な実施を推進するとともに、定時退校日が実効的なものになるように業務の効率化、スリム化を図る。
		平日における部活動の休養日の確実な実施	年間総時間外の勤務時間の5%減少(前年度比)	2	△平日の部活動休養日をとる部が少なかった。 △特定の教員の勤務時間を減少することができなかった。	A		
		学校閉庁日の確実な実施		2		B		

◇ 評価について 【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)
【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである